

# 地域資源の活用と 連携・協働

ぎふNPOセンター  
理事長 駒宮博男

# 主任相談支援員に求められる 地域資源との連携、開発

(テキスト的には、第5章「生活困窮者支援を通じた地域づくり」)

- 地域資源の活用と連携、協働
- 排除の無い地域づくりの創造に向けて
- コミュニティアセスメントの視点と方法
- 地域づくりネットワーク
- 社会資源の開発
- 地域住民への福祉教育の推進
- 地域づくりに活かす地域福祉計画

# 一人の相談者が地域を変える

- 事例)
  - 国際結婚(母親:片言の日本語)
  - 子どもが障害者
  - 母親孤立、就労希望
- 連携機関
  - ファミリーサポートセンターからの相談
  - HW
  - 国際交流センター
  - 学校、教育委員会
  - 子ども相談
  - ⇒ 子どもは特別支援学校へ
  - ⇒ 母親は地域で英会話教室の講師に
- 地域の何が変わったか？
  - 社会的排除から社会的包摂へ
  - 多文化共生

最も身近な資源は活用されているか  
（身近なもの全てが資源??）

- 同僚の支援員のタレントを認識しているか？
  - 身近な同僚(部下)の隠れた能力  
法律・制度に強い！  
元不動産業で、シェルターデータ保有  
美大出身は鬱、緘黙に活用可？
  - チーム支援＝多様な能力の利用
  - 資産家の支援員は大いに活用？
  - 地域の多様な人、機関との繋がり
- 庁内連携と制度としての資源
  - 多様な相談窓口と、付随する種々の制度

不足している地域資源は？

自己完結的に支援しようとしていないか  
(完全な支援者は存在しない！)

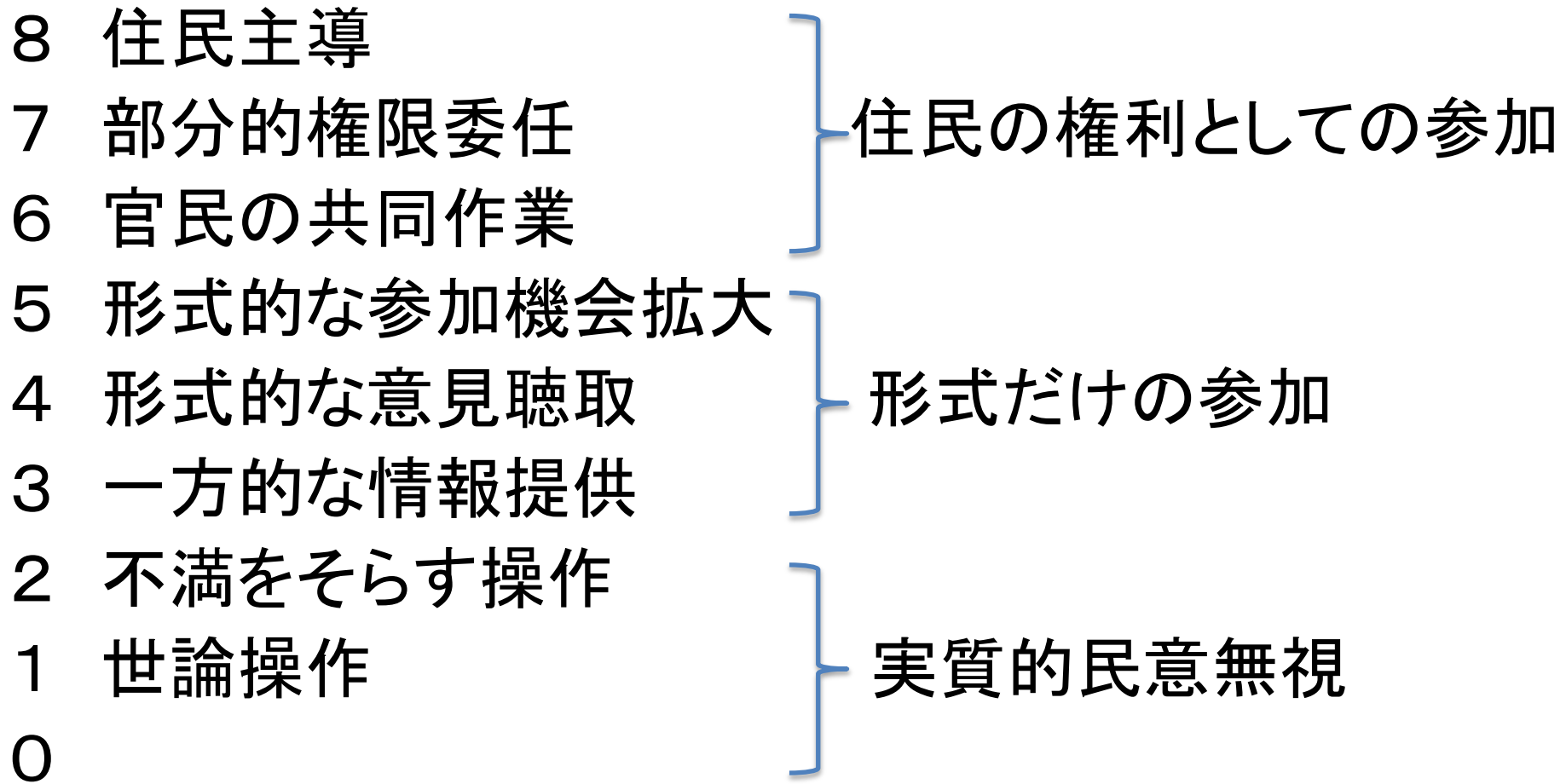
地域資源と日常的に繋がっているか



皆さんの地域はどの段階か？

・・・「地域づくり」の前提として・・・

# 「住民参加の梯子」



(テキスト page 209)

# どこでも不足している社会資源

- 中間就労機関
  - 財政的メリットが不明確??
  - 果たして認定機関は出来るのか??
- 「社会的包摂」という思想基盤
  - まだまだ強い「社会的排除」思想
- 「困窮者問題＝社会問題」という地域マインド
  - 困窮は「自己責任」で社会問題にあらず?

# そうは言っても……

- まずは、緊急支援が確実に出来ること
  - シェルター
  - 緊急用食料
  - 緊急医療(無料低額診療等)
  - 警察
  - 法律家等
  - 当座のお金
- 続いて、「早期発見」、「早期支援」
  - 民生委員、地域包括(ケアマネ)……
- 緊急課題がクリアしたら……
  - 本当の意味での「自立支援」
  - 地域づくりが最終的な姿

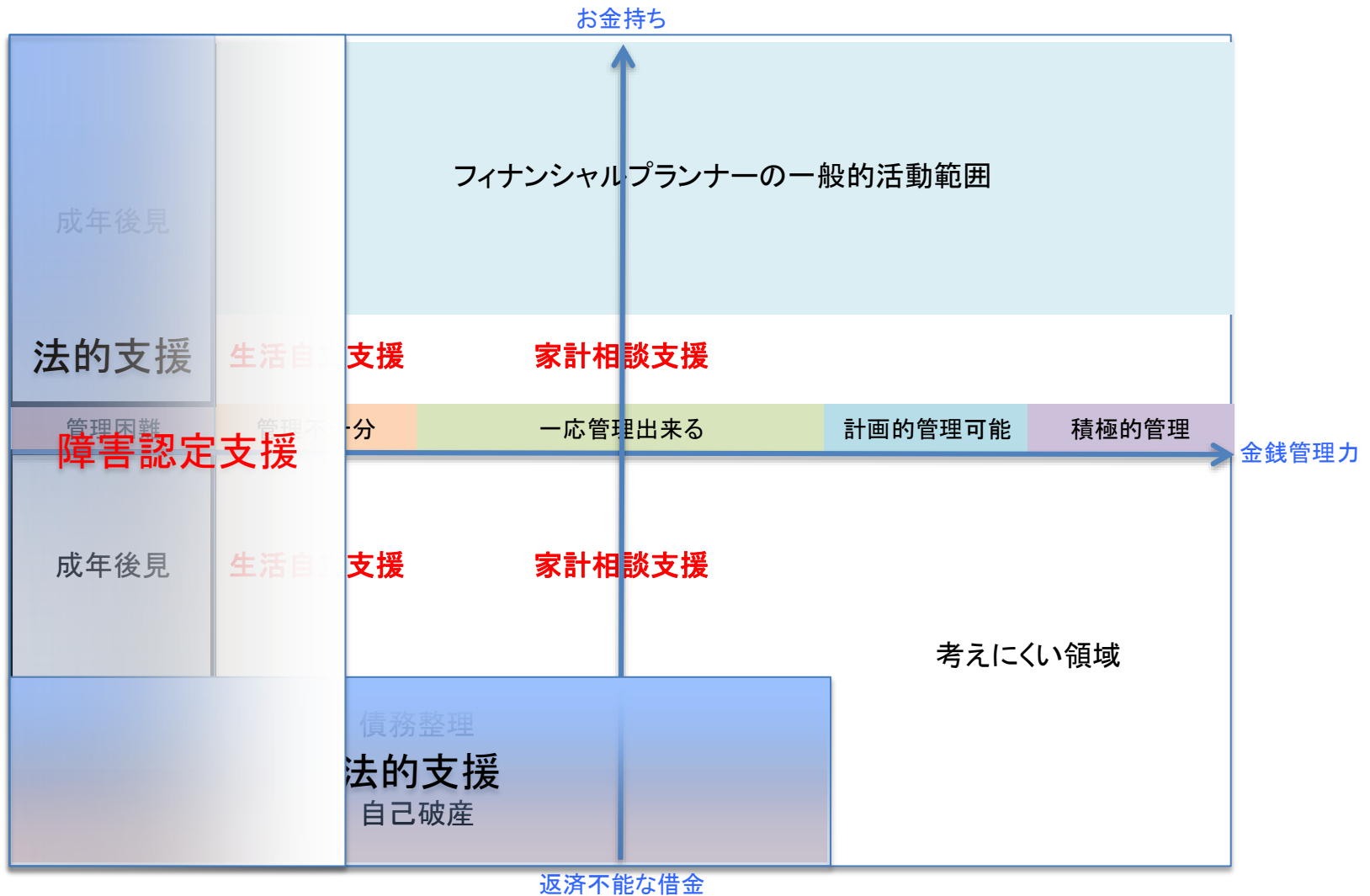
# 岐阜市・関市・土岐市の地域資源

- 緊急支援関連
  - だいたいOKだが.....
  - ◎◎◎法人○○:いわゆる「貧困ビジネス」?  
等は、必要悪としての地域資源か??
- 就労支援関連、その他
  - 居場所(社会的居場所)
  - 先駆的NPO(就労準備、中間就労、学習支援)

(参考)

「家計相談支援」を考える

# 家計相談支援の周辺



# 最後に……

- 今年度の厚労省研修
  - 昨年と同規模の250人/年 × 3種
- 対象自治体等
  - 約900
  - 昨年度で250セット、今年度で250セット
    - ⇒ 岐阜県からは、今年度5セット(15人)
    - ⇒ 全て終わるには、昨年度含め4年間かかる
    - ⇒ 自己研鑽 + ネットワークで情報交換！！